

第2回“宇宙(天文)を学べる大学”合同進学説明会の開催 - 広報の在り方と高校生のニーズ

Y05a

渡辺謙仁、福江 純、松本 桂、定金晃三(大阪教育大学)、有本淳一(京都市立塔南高校)、河野明里(貝塚市立西小学校)、成田 直(豊能町立吉川小学校)、西村昌能(京都府立洛東高校)、米原悦子(島本町立第一小学校)、渡部義弥(大阪市立科学館)

大学進学先として、天文学を学べる大学は以外と各地にあるものの、各地域でその情報は十分に浸透しているとはいえない。今回、天文教育普及研究会近畿支部と大阪市立科学館の共催で、2009年6月14日に大阪市立科学館で、昨年に引き続き2回目となる、天文学に特化した合同進学説明会を開催した。

大学側は資料参加も含めて17大学の参加があったが、高校生側は前回(34人)より減少し18人とどまった(大学生の参加者数は5人、その他は3人)。今回は前回よりも高校などへの告知を広く行ったのにも関わらず、前回よりも高校生の参加者数が減少した原因としては、高校教員への個人的なアナウンスが不十分だった、新型インフルエンザによる休校の影響で高校教員から高校生への告知が十分にされなかった、当日の天気が良く高校生が他所へ遊びに行ってしまった、雑誌を含むマスコミへの宣伝がまだまだ足らなかった、などが考えられる。今後は、YouTubeやニコニコ動画などのインターネットコミュニティも、高校生との新たなコンタクトポイントとして活用して行かなければならないだろう。

当日午前中に参加大学の内16校から、教育研究内容や大学の特色などについて、2会場に分かれてプレゼンテーションが行われ、ランチタイムには各大学のブースでの個別の説明と、午後には高校生向けの講演が3本行われた。アンケート調査も行い、11名の高校生から回答があった。大学紹介はわかりやすかった(8名)、研究内容に興味があった(9名)、講演を聴いて天文学への関心が高まった(8名)などの反応があった。